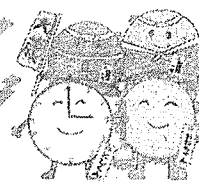




心と得天真

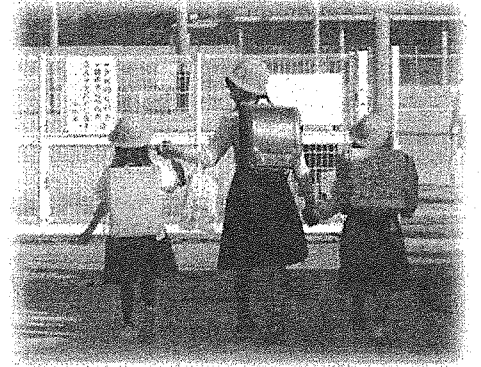
～心として天真を得る～



山口市立大歳小学校
学校だより
令和7年5月

心をつなぐあいさつ！

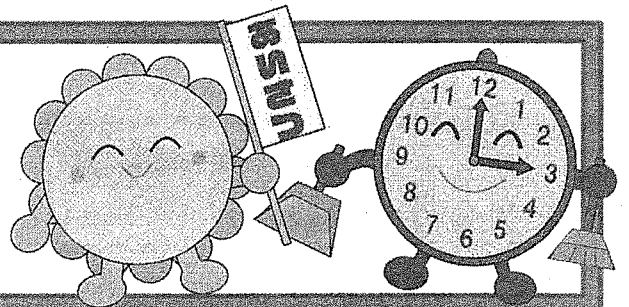
新年度がスタートして、1ヶ月が過ぎました。子どもたちは、新しい学年、新しいクラスの中で、新しい友達や新しい先生と、元気いっぱい過ごしています。入学したばかりの1年生は、まだまだ不安があると思います。朝、涙が出る場面もあります。そんな1年生に、高学年の子どもたちが、登校時や靴箱、教室で優しい声をかけ、お世話をよくしてくれています。優しい高学年の子どもたちのおかげで少しずつ学校生活にも慣れ、安心感が高まっているように感じます。思いやりいっぱいの高学年の姿を立派に思うと同時に、感謝しています。



さて、4月の始業式の後に、生徒指導担当から大歳小のチャレンジ目標の話がありました。子どもたちが大きな声でチャレンジ目標を言っている姿を見て、しっかり意識をしているのだなと感心しました。

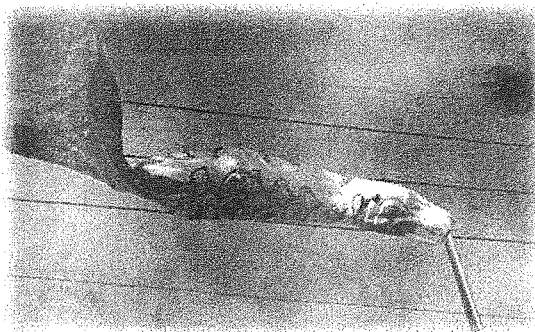
一人ひとりがみんなのために

おお 大きな声で 明るいあいさつ
とし 時計を見て 行動
し 静かに すみすみまで そうじ



チャレンジ目標の一つ目に掲げている **大きな声で 明るいあいさつ**。あいさつは魔法の言葉です。人の気持ちを温かくしてくれたり、うれしい気持ちにしてくれたりします。ほっと安心させてくれることもあります。私もドキドキしてこの大歳小学校に着任し、4月8日の朝を迎えましたが、朝一番の子どもたちの元気なあいさつ、笑顔でのあいさつで、どれだけ心が安心したか、楽みな気持ちが大きくなったか。子どもたちのあいさつのおかげで、さらに元気が出ました。そして、その後の会話が弾みました。まさに心をつないでくれる、魔法の言葉だと感じました。

「おはよう」「さようなら」「行ってきます」「ただいま」…。いろいろなあいさつがあります。短い言葉ですが、その言葉を大事にすることで、人とのつながりを感じることができます。コミュニケーションの第一歩でもあります。本校ではそのあいさつの輪を広めていくことを大切にしていきたいと思います。



そして、5月と言えば、鯉のぼりの季節です。学校の前の大歳地域交流センターにも鯉のぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。朝、「あ、鯉のぼりだ。すごい。」「鯉のぼりが泳いでる！」という子どもたちの声が聞こえてきました。大歳小の子どもたちも、鯉のぼりのように、たくましく、自分らしく、のびのびと生活してほしいと思います。

校長 門岡 裕二